

# 製造業堅調 需要取り込め

東三河地域でビジネスホテルの開業が相次いでいる。地元製造業などの事業が堅調に推移していることを背景に、ビジネス客の需要増加が見込まれるためだ。インバウンド（訪日外国人）を含む観光客の利用拡大も期待でき、各社とも新ホテルの開業により増加する需要を取り込む構えだ。

（豊橋・勝又佑記）

「豊橋市を含む三河地域は、行政が企業誘致に力を入れていて。ビジネス客の需要が一段と増える」。ビ



ジネスホテルを展開する共立メンテナンス（東京）の広報担当者は期待を寄せる。同社は2020年6月にもJR豊橋駅近くの同市札木町に、170室の「ドミニーン豊橋」をオープンさせる。

豊橋駅近くではホテルの開業ラッシュだ。ドミニーンの他にも、山忠（愛知



## 観光客にも期待 競争激化

県大治町）は、4月に駅前で「ジャストインプレミアム豊橋駅新幹線口」を開業。呉竹荘（浜松市）も将来、豊橋駅前でビジネスホテルを開設する方針だ。

ABホテル（安城市）は1月に三河田原駅前に「ABホテル」を開業したのに続き、7月初旬にJR蒲郡駅前にもホテルをつくる。蒲郡は130室を設置。建物は意匠性を高め、利用客に非日常的な空間を楽しんでもらう。

同社幹部は「ビジネス客に加え、蒲郡のレジャー施設などに訪れる観光客の需要も取り込みたい」と強調する。

一方、迎え撃つ豊橋市内の既存のホテルは、新規のビジネスホテルへの警戒を強めている。あるホテルの広報担当者は「正直いって脅威。全国チェーンのホテルは知名度もあり、ビジネス客が取り込まれる恐れがある」と表情を曇らせる。

今後、競争激化の様相を強める中、各社とも値打ち感のある価格設定やサービスが求められそうだ。

東三河でビジネスホテルの開業が相次いでいる（写真はジャストインプレミアム豊橋駅新幹線口）

